

2021,2月号

ハノイ日本人学校 学校便り

こころの道

令和3年2月1日

Nhan hieu Thong minh Khoe manh

やさしく

ニャンハオ

かしこく

トゥオンミン

たくましく

ホエエマイン



夢と誇り

明石 清二

「正月」「明るい心」「新しい風」「将来の夢」「不言実行」「夢を信じる」いずれの言葉もなんと美しい日本語であり、新年を迎えるにあたり、これほどまでに前向きで子供たちの行く道を照らしてくれる言葉はありません。これらの筆文字がギャラリーホールに並んだとき、日本人学校の子供たち全員の幸せを願わずにはいられませんでした。

低学年の子供たちは硬筆での参加であり、これまた一文字一文字丁寧に丁寧に書いたであろう姿が目に浮かびました。

背筋をぴんと伸ばし、手本どおりに書き写そうと努力することに「書写」の本質があります。覚えることは真似ることから始まります。完璧に書き写すことができるようになった方が師範であり、そこから先、型を破り手本を離れていくことが独自性なのでしょう。基本のないところに独自性はないと考えています。

各国でコロナ禍の続く「正月」ですが、「明るい心」だけは忘れずに歩きたいと思えます。歴史を振り返りますと、スペイン風邪やペストの流行などがあり、多くの方々が尊い命をなくしましたが、「新しい風」が吹き人類は繁栄し続けています。どのくらい先になるのかは分かりませんが、コロナと共存する新しい世界が確立されることでしょう。先が見えにくい現在であっても「将来の夢」はしっかりと持ち続けさせたいと考えます。「不言実行」という日本人ならではの道徳観を胸に秘め、自分の「夢を信じる」ことに専念させるとともに、人のために生きるという高い誇りを胸にこれからも生活させていきたいと思えます。

学校全体が、そこはかとなく明るく、学校に来るのが楽しい、そんな雰囲気になれば何よりです。

これからも、学校教育目標にお示ししました「夢と誇りをもった子供」を育ててまいります！



現地校交流

近隣のベトナム校と交流を始めています。授業の様子や生活の様子に文化の違いが色濃く現れ、子供たちも興味津々といったところ。現地校交流は、日本人学校だからこそできる一つの大きな特色ですので、より多くのことを経験させ、より多くのことを直接学ばせたいと考えています。

訪問させていただいたレクイドン小学校やパスカル小中学校では、「おもてなし」を肌で感じる配慮をしてくださっていますので本校の子供たちは大満足しています。

今後も交流会の開催を予定していましたが、先週のコロナ発生により中止せざるを得ない状況ですので、また好機が訪れるのを待つことにします。

交流会に限らず、各行事や校内での生活様式を変更しなければならない状況ですが、今できることに精一杯取り組ませながら、進級、進学させたいと考えています。

